

高等教育機関教職員のための 人材育成プログラム

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜では、加盟機関の教職員を対象とした「人材育成プログラム」を開催いたします。皆さんと共に学び、その成果を日常業務で活用できるよう、高等教育機関が抱える様々な課題や最近のトピックに関する内容を準備いたしました。教職員の皆さん一人ひとりが輝き、より良い大学運営が成されるように、多くの方のご参加をお待ちしております。

参加申込方法

各回とも、加盟機関を通じ参加希望者を募ります。

遠隔配信やインターネットによるe-Learning受講も可能です。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、オンライン開催へ変更する場合がございます。

第1回 6月10日(金) オンライン開催のみ

OJTによる部下指導

藤本 正己 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 特定研究員)

第2回 7月15日(金) オンライン開催

アフターコロナの大学教育を考える

加藤 真紀 (名古屋大学 高等教育研究センター 教授)

第3回 8月26日(金)

高等教育の質保証と学生の立場について

山田 勉 (名古屋市立大学 高等教育院 教授)

第4回 10月7日(金)

大学におけるIR：10年間の振り返りから見えるもの

原田 健太郎 (島根大学 教育・学生支援本部 大学教育センター 講師)

第5回 11月11日(金)

学修成果を最大化する教学マネジメント

川越 明日香 (熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授)

開催時間：14:00～16:00

開催会場：岐阜大学柳戸キャンパス

全学共通教育講義棟 (岐阜市柳戸1-1)【裏面参照】

お問合せ先：
ネットワーク大学
コンソーシアム岐阜
(岐阜大学 学務部 教学企画課)

TEL：058-293-2135

FAX：058-293-3382

HP：<https://www.gifu-uc.jp/>

令和4年度人材育成プログラム

第1回 6月10日(金) OJTによる部下指導

大学職員の業務においては、日常的にOJTが行われています。OJTでは上司自身がこれまで受けてきた指導をもとにして、部下に対する指導を実践していることも多いでしょう。そのため、上司が実践しているOJTが必ずしも部下にとって適切であるとは限りません。本研修では、OJTに関する基本的な方法や役割、課題を踏まえ、参加者の皆さんの実践内容をもとに、部下にとって適切なOJTによる指導を考えていきます。

第2回 7月15日(金) アフターコロナの大学教育を考える

2020年度から始まったコロナ禍によって、日本の大学教育はそれまで類を見ないデジタル化を経験しました。私たちはこの経験を今後の大学教育の向上にどのように活用できるのでしょうか。アフターコロナの大学教育像を描くのは容易ではありませんが、約2年間に報告された事例を基に、日本の大学授業のデジタル化や、オンライン化によって加速する大学間連携などを題材として、みなさんと一緒に考えたいと思います。

第3回 8月26日(金) 高等教育の質保証と学生の立場について

学生は、高等教育の中心的なステークホルダーと言ってよいでしょう。にもかかわらず、認証評価などで行われるインタビューでは、一部の学生のみを対象とすることの方がむしろ一般的です。では、『全国学生調査』のように、「みなさん一人一人の回答が我が国の大学教育を良くします」と呼びかけて学生の意見を聴取し、それを各大学が採用すれば、本当に教育の質は保証されるのでしょうか。この講演では、多様な学生に、その能力と希望に応じて、質保証に参加してもらうことがなぜ必要なのか、またその具体的なあり方についてみなさまと一緒に考えます。

第4回 10月7日(金) 大学におけるIR：10年間の振り返りから見えてくるもの

大学における「インスティテューショナル・リサーチ (IR)」は、2010年頃から着目されはじめ、この10年で急速な拡大を遂げた。当初は教育に関するIRが中心であったものの、各大学の経営力を強化することを目的に、研究や経営、評価等の機能を有するIRも実施されるようになった。本FD・SDでははじめに、日本のIRにおける10年間の歩みを報告した上で、A大学の事例をもとに、IRにおける成功と「失敗」を紹介する。それを踏まえて、有効なIRの在り方を、機能と組織という観点から提案し、参加者の大学でのIR推進を支援することとする。

第5回 11月11日(金) 学修成果を最大化する教学マネジメント

中央教育審議会によるグランドデザイン答申や産業界によるSociety 5.0に向けた対応でも取り上げられている通り、わが国の高等教育機関は新たな時代に対応するための教育改革推進が求められている。また、コロナ禍で急速に進んだオンライン授業によって、今後さらに学生の学修成果を最大化する教学マネジメントの充実・推進が必要不可欠になっている。そこで本FD・SDでは、熊本大学における学修成果の可視化に向けた取り組みを紹介するとともに、参加者の所属機関において学修成果を最大化する方策について考える。

会場案内図

